

《特集》

私たちが伝える介護職

● 問合先

長寿社会課高齢福祉・介護認定係

(☎23・2162)



市の人口は、減少傾向で推移している一方、高齢者人口は増加しています。また、市の高齢化率は33%を超えていて、およそ3人に1人が高齢者です。市の高齢化率は、国や県よりも高く、超高齢社会を迎えています。

超高齢社会の中で、高齢者の生活を支えていくために、さまざまな介護職があります。

今回の特集では、介護職を志す、敬徳高校生活福祉コースの2年生4人が『高校生リポーター』に就任し、将来の進路先として高い関心を持っている『介護福祉士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士』が働く介護施設などを訪れ、介護の一口を取材しました。

高校生リポーターの目を通して、高齢者の生活を支える介護職を紹介していきます。

皆さんも介護職について、考えてみてください。

高校生リポーター

がんばるぞー!!



みやち れいな
宮地 玲菜さん



やすかわ とわ
安川 斗和さん



ふじもり あいら
藤森 愛空さん



いぬつか はるひ
犬塚 悠陽さん



ひうら まさし
日浦 将史さん
(特別養護老人ホーム 長生園)



↑入浴時に使用する福祉用具の説明を受けています



↑利用者がふだん生活する部屋を見学しています



↑日浦さんと利用者のコミュニケーションを間近で見学

interview 1 介護福祉士

生活全般を支える仕事
「ありがとう」の言葉に
やりがいを感じます

Q 介護福祉士の仕事内容を教えてください

介護福祉士は、日常生活を送ることに支障がある高齢者などに心身の状況に応じた介護サービスを提供する介護のスペシャリストです。

国家資格であり、介護に関する専門的な知識・技術を持つて働いています。

ふだんは、利用者の食事や排泄、入浴などの生活全般を介助していて、スタッフ4、5人で、利用者20人を担当しています。そのほか、食器を洗ったり、洗濯をしたり、レクリエーションやイベントを考えています。

Q 介護福祉士になったきっかけを教えてください

私の場合は、特に目指しているものがないときに、たまたま紹介された仕事が介護福祉士でした。介護のことを何も知らない状態でこの仕事を始めたので、最初の3カ月間は覚えることが多く大変でしたが、利用者との関係が深まるにつれて面白さを感じるようになりました。今では、自分に合っている仕事だと思っています。

Q 介護福祉士の大変なところはありますか

夜勤です。夜勤は、各フロア一人ずつで担当するので、日中よりも気を遣うことが多くなります。寝付けない利用者や歩き回る利用者を一人に対応するのは大変ですが、利用者の特徴を知ることに対応のしやすさが変わってくるため、日頃から利用者の様子を観察し、コミュニケーションを取るようにしています。

Q 介護福祉士のやりがいを教えてください

利用者から「ありがとう」と感謝の言葉をかけてもらったときです。特に忙しいときに言ってもらえると肩の力が抜けて気持ちになります。

Q 利用者と接するときに気をつけていることはありますか

利用者を驚かせないため『声や言葉のかけ方』に気を付けています。急に声をかけたり、後ろから声をかけたりせず、表情が見える正面の位置で声をかけるようにしています。また、言葉のイントネー



↑初めて踏み入れた介護の現場はとても緊張しました

Q 介護福祉士にはどのような人が向いていますか

シヨンで聞こえ方の印象が変わるので、柔らかい言葉を使うようにもしています。言葉以外にも身振り手振りを使うようにしていますし、なにより、笑顔で声をかけるように心がけています。

優しい気持ちで利用者に接することが出来る人や利用者の立場に立って対応ができる人です。知識や技術は働くことで身に付きますが、それだけではなく、優しい気持ちをどれだけ多く持てるかが大切だと思っています。

優しい気持ちが大切



interview 2

理学療法士

「リハビリの効果が出る」とや
「あなたでよかった」の
言葉に力をもらっています



そえしま ゆりえ
副島 友梨恵さん
(ケアポート 楽寿園)



↑実際に使用されている器具でリハビリを体験



↑リハビリ中は特にコミュニケーションが多く取られていました



↑歩行訓練は、利用者の状態にあった杖を選んで、利用者のペースを大切にすることがコツだと学びました

Q 理学療法士の仕事内容を教えてください

理学療法士は、ケガや病気などで身体に障がいのある人や障がいの発生が予測される人を対象に、座る、立つ、歩くといった『基本動作能力』の回復や維持、障がいの悪化を予防することで自立した日常生活が送れるよう支援する、リハビリの専門家です。

国家資格を持ち、基本動作の練習のほかに、筋肉や関節を動かす『運動療法』や、電気刺激などの物理的刺激を与える『物理療法』によって治療を行います。

医師の指示を受けたり、利用者の病気のことや能力、困りごとなどの課題を把握したりして、利用者一人一人に合ったリハビリを行っています。

Q 理学療法士になったきっかけを教えてください

高校生の頃、水泳競技でケガをしたときにリハビリを受けたことで興味を持ちました。また、大学のオープンキャンパスで話を聞いたときに、リハビリを通して人に携わる理学療法士という職業に魅力を感じました。

Q 理学療法士の大変なところはありますか

リハビリに対する利用者のモチベーションを維持することです。リハビリが上手に進む人とそうでない人がいます。また、リハビリは効果が出るまでに時間がかかります。リハビリが上手に進まないと気持ちが落ち込む人もいます。そのような場合に、利用者の気持ちに寄り添いながら、それぞれの目標達成に向けて、頑張ってもらえるよう、声をかけながら行うようにしています。

Q 理学療法士のやりがいを感じていますか

リハビリの成果が出て利用者が元気になったときや、リハビリを終えた利用者から「担当者があなたでよかった」と言ってもらったときです。

Q 利用者と接するときに気を付けていることはありますか

利用者の性格を見極めながら口調や話すトーンを変えるなど、一人一人に合わせてコミュニケーションを取るよう



↑自分でペダルを漕いで走ることができる車いすに試乗しました

Q 理学療法士にはどのような人が向いていますか

にしています。また、話すときは、利用者と視線を合わせて、利用者の気持ちをくみ取れることを心がけています。

利用者が自立した日常生活を送れるように支援することは、その人の人生に関わっているため、責任感がある人が向いています。また、利用者の気持ちをくみ取ることができるようコミュニケーション能力と、どうしたら利用者のためになるかを常に考えることができる向上心を持った人です。

責任感や向上心を持つ





渡辺 剛志さん
(ケアポート 楽寿園)



↑ 器具を使ったリハビリを行う様子を見学

interview 3 作業療法士

趣味活動を取り入れて、
楽しみながらリハビリが
できるところが魅力です



↑ 質問に分かりやすく答えてもらいました



↑ 実際にリハビリで使用する『もちやすい箸』の説明を受けました

Q 作業療法士の仕事内容を教えてください

作業療法士は、身体や精神に障がいのある人がその心身機能を回復し、日常生活や社会生活に復帰できるように、食事や着替えなどの生活に欠かせない行為の訓練などを行っています。国家資格で、食事や歯みがきなど、日常生活の動作、家事、遊び、スポーツといった作業などを用いて日常生活や社会復帰を支えるスペシャリストです。

リハビリでは、認知機能の予防や改善に力を入れていて、利用者それぞれの趣味活動を取り入れることで、楽しみながら取り組んでもらうようにしています。

Q 作業療法士になったきっかけを教えてください

高校生のときに進路を決める際『人の手助けをしたい』と思い作業療法士を目指すことにしました。

作業療法士は、利用者の趣味を生かしてリハビリを行うので、互いに楽しみながら訓練を進めることができるところが魅力です。

Q 作業療法士の大変なところはありますか

国家試験に合格したからといって終わりではなく、働きながら自己研鑽を続けて、常に新しいことを学び続ける必要があります。

Q 作業療法士のやりがいをお願いします

利用者が訓練をして、できなかった日常生活の動作ができるようになり、本人やその家族から感謝されたときです。

Q 利用者と接するときに気をつけていることはありますか

利用者一人一人に合ったコミュニケーションを心がけて



↑ リハビリの目的や器具を使用して得る効果など説明を受けました

います。表情や声のトーン、話す速さ、ジェスチャーを交えるなど、工夫をしています。また、利用者の気持ちに寄り添い、共感するようにしています。利用者の立場で考えて行動することが信頼関係を築くことにつながると考えています。

Q 作業療法士にはどのような人が向いていますか

『利用者に向き合いたいという情熱を持つこと』が一番大切だと思っています。そのほかにも利用者の気持ちに寄り添い、共感できることや、目標に向かって頑張ることができる人、忍耐力がある人です。また、記録などをしっかりと残す几帳面さや、ほかの職種と同僚と連携するため、コミュニケーションをきちんと取ることができる人です。

利用者に向き合う情熱を持とう !!



言葉のコミュニケーションや 口から食事をとることを 支える大切な仕事です

Q 言語聴覚士の仕事内容を
教えてください

言語聴覚士は『話す、聞く、
食べる』のスペシャリストです。
国家資格で、医師または歯科医
師の指示のもとに、食べ物を飲
み込むための嚥下訓練や発声、
発音などの機能を回復するた
めの訓練などを行います。

患者さんは、子どもから大人
まで幅広く、人によって抱える
問題はさまざまで、言葉による
コミュニケーションの問題は、
失語症、聴覚障がい、言葉の
発達遅れ、声や発音の障がい
など多岐に渡ります。一人
一人が抱える問題の原因を明
らかにして対処法を見つけ出
し、リハビリを通して症状の改
善を図り、自分らしい生活を
構築できるように支援します。

学校では、失語症などの勉
強をする機会が多かったです
が、今の職場では、高齢の患
者さんが多いので、失語症に
比べて、嚥下訓練などの需要
の方が多くあります。

Q 言語聴覚士になったきつ
かけを教えてください

高校3年生の夏休みに、進
路を考えようと進路の資料室

↑カードを使ったりハビリを見学

↑生徒も利用者とコミュニケーションを取りました



↑生徒たちは、初めて知る言語聴覚士の仕事を熱心に聞き取っていました

に行ったとき、パンフレット
を見て興味を持ちました。

Q 言語聴覚士の大変なところは何ですか

患者さんの中には、上手く話
すことができなくて、コミュニ
ケーションを図ることが難
しい場合があり、そのときは
気持ちをくみ取ることが難し
いです。ほかにも、患者さん
が口から食事をとることがで
きないことを意見として医師
に伝えるときなどは、患者さ
んの気持ちを考えるとつらく
なります。

Q 言語聴覚士のやりがいを
教えてください

コミュニケーションを図ろ
うとしてくれなかった人が、
少しでも話そうとしている姿
を見たときです。また、患者
さんの笑顔や口から食事がと
れなかった人が回復して、元
気に退院していく姿を見ると
うれしくなります。

Q 利用者と接するときに気
をつけていることは何ですか

患者さんの尊厳を守ること

を大切にしています。患者さ
んは、高齢で認知症を患って
いる人が多くいますので、言
葉遣いには気を遣っています
し、人生の先輩だと思って接
しています。

また、リハビリの最初と最
後には必ずあいさつをするよ
うにしています。聞こえてい
ても返事ができない人もいま
すが、あいさつは欠かせない
ようにしています。

Q 言語聴覚士にはどのよう
な人が向いていますか

身体だけでなく、心も弱っ
ている人が多いので、相手の
気持ちを想像できて、思いや
りの気持ちを持てる人が向い
ていると思います。

また、患者さんによっては、
予想できない行動をすること
などもあるため、臨機応変に
対応できる力があると良いと
思います。

相手を思いやる
気持ちが大切





私たちが感じた『介護職』



高校生リポーターに、取材したあとに感じたことなどを聞きました。



宮地 玲菜さん

一番興味を持っていた介護福祉士の話聞いて、自分が想像していたよりも大変だと思いました。利用者と接するときは驚かせないために、急に声をかけないことや、後ろから声をかけないことを教わりました。今後の実習などで意識しようと思います。

介護福祉士の日浦さんは、利用者に優しく、気さくに声をかけていて、利用者も自然と笑顔になっていました。日頃のコミュニケーションの積み重ねがとても重要だとわかりました。

どの職種も利用者からの「ありがとう」を聞くときが1番やりがいを感じるということを知り、人と関わる仕事ならではの魅力だと思いました。

今回、自分が目指す職業に一層興味を持つことができ、仕事内容も具体的にイメージすることができました。まずはしっかりと授業を受けて勉強を頑張ります。

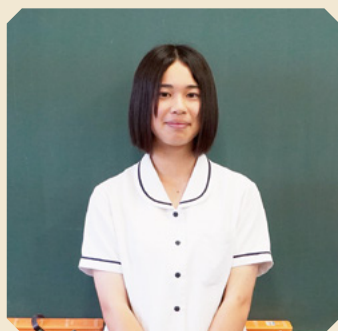


安川 斗和さん

どの職種もコミュニケーション能力がとても必要だということがありました。また、利用者の生活を考えて支援を行うことが大切だと感じました。

印象に残ったのは言語聴覚士の取材です。これまで言語聴覚士についてあまり聞いたことがなかったのも、仕事の内容を聞いて大変さを感じました。例えば、自分の言いたいことが上手く伝えられない患者さんの気持ちを想像して、相手の立場になって考えることです。また、自分の意見次第で、患者さんが自分の口から食事ができなくなり、そのことが利用者の命に関わる場合があることなどにも驚きました。

今回、介護の現場などを取材して、自分の進路について考えたり、そのために今の段階でどのようなことに取り組んでいくべきかを考えたりする、いい機会になりました。

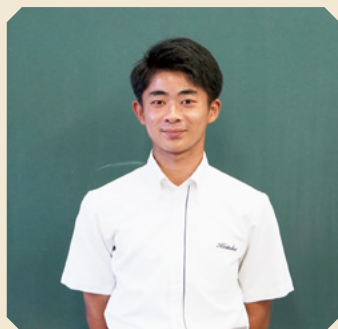


藤森 愛空さん

今回の取材は、将来のことを具体的に考えるいい機会となりました。個別のリハビリでは、利用者と何気ない会話をしながら利用者の様子を注意深く観察したり、集団でのリハビリでは、声かけをしながら全体に気を配ったりしていて、将来、自分もそのようなことができる介護のプロになりたいと思いました。

人と関わることの難しさだけでなく、リハビリをスムーズに進めるためのコミュニケーション、やりがいを感じている点などを聞いたことで、さらに介護の業種に興味がわきましたし、責任感とやりがいのある仕事だと再確認することができました。

今回の経験を生かして、まずは、学校での過ごし方や定期考査に対する取り組み方を変えるほか、介護や医療関係の仕事について理解を深めることが大切だと感じました。



犬塚 悠陽さん

介護職は、元々大変な仕事だと思っていましたが、今回働く現場を取材して、自分が想像していたよりも何倍も大変だと思いました。1番興味を持っていた理学療法士の仕事の方が自分が想像していたよりも体力を必要とする仕事だとわかりました。

それぞれの職種ごとに仕事の内容は異なりますが、共通して言えることは『利用者の気持ちを考えて、傷つけることなく利用者のために全力でつくす』ということです。どの職種においても、利用者の様子を観察しながらコミュニケーションを取り、スムーズに支援を行っている様子を見て、現場で活躍するためには、多くの経験と勉強が必要だと感じました。

取材をして、介護職が大変そうだと感じることもありましたが、それ以上にそれぞれの職種で活躍する皆さんがとてもかっこいいと感じました。私もそうなれるように、まずは勉強を頑張りたいと思います。